

委員名	区分	質問・意見	回答	部	関係課
市野委員	意見等	令和2年は、コロナウイルス感染症予防のため、実習等を通じた健康づくりの啓発がほぼ実施できませんでしたが、今後は家で過ごす時間が多くなることを踏まえて、健康に生活できる食生活レシピを配布・啓発していきたいと思っている。			
小林委員	質問	No172「・・・主催部局【総】研修センター、都）建築保全課、保/生活環境課】の方針よりR1年度より廃止」とあるが、「方針」ではわかりづらいのでは。	施設管理研修は、施設の維持管理担当者を対象とした集合研修の形態で、機械・電気設備の維持管理事務を中心にシックハウス対策も含めた講義を行ってきました。しかし、市が管理する施設にはそれぞれ特殊性を有するものが多く、すべての受講者のニーズに対応することが難しいことから、個別対応に切り替えることとし、当該研修を廃止しました。	保健所	生活環境課
	質問	No159「先行地区の健康課題に応じて、住民や関係機関とで協同で健康課題に取り組んでいる」とあるが、「先行地区」ではわかりにくい。	平成28年度まで、各区1地区ずつについて先行的に高齢部門・母子保健部門の保健師と一緒に地域の健康課題について取組を進める地域保健活動推進事業を実施していました。現在は、本事業は終了していますが、上記活動を行った10地区（先行地区）の活動で得られた成果を、その他の地域にも広げられるよう各地区担当保健師が取り組みを進めています。表現については、今後検討していきます。	保健所	健康企画課
	質問	No164「企業・団体のネットワークや媒体を活かし、幅広い世代への普及啓発実施」とあるが、「媒体」ではわかりづらいので、もう少しかみ砕いた表現にならないか。	企業・団体のネットワークや広報誌、リーフレット、アプリ通信などの広報媒体を活かし、幅広い世代への普及啓発の実施に表現を変更します。	保健所	健康企画課
	質問	No159以降の「健康を支えるための社会環境の整備」について、「基本要素9」となり、「取組方針」が表記されないのでしょうか。	札幌市健康づくり基本計画の取組内容は、取組方針を定めた8つの基本要素からなります。「健康を支えるための社会環境の整備」は基本要素の全体に係る内容となり、別項目として挙げています。	保健所	健康企画課
	意見等	表記方法、修正等について（全体）	御指摘のとおり、表記の誤り等について修正いたしました。	保健所	健康企画課
高橋委員	意見等	札幌市においても、新型コロナウイルス感染症の増加が度々確認されておりますが、次年度以降も大きな改善が見込めるかは不明です。 歯科については、幸い大きなクラスター発生は確認されておらず、今後も感染対策を徹底していきますが、一部報道等の影響により、受診抑制が起きていると考えられます。 口腔管理により全身の健康状態の維持に役立つという考えもあり、今後、行政機関におかれましても、各健診（検診を含む）、かかりつけ歯科に対する受診勧奨をお願いいたします。			

委員名	区分	質問・意見	回答	部	関係課
玉腰委員	質問	当面 感染対策をしながらの事業展開が求められると思う。予定している方策があれば教えてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・受動喫煙対策については、公共交通機関の広告掲出による周知啓発を行いたいと考えています。 ・乳幼児健診を初めとする母子保健事業の実施については、感染防止対策を徹底した上で実施するよう示しています。特に乳幼児健診については、密を避け安心・安全な健診を運営できるよう、新たに順番管理システムを導入したところです。 ・食育の推進については、集合型の教室に代えて、広報、ホームページ、新聞等を活用し、健康づくりの推進を行っています。計画やオンラインによる教室を一部導入を始めています。 	保健所	健康企画課
	質問	「健康さっぽろ21（第二次）」進捗状況報告書の基本要素の「1 栄養・食生活」について、高校生のための食生活指針に関するアンケートの具体的なまとめもしていますか。	配布や活用状況の把握のためアンケートを行い、まとめております。回答のあった学校はすべて配布されており、授業やホームルームで活用したとの回答が多くありました。「食生活を振り返る良い教材だった」等の声もいただいています。令和3年度についても調査を行い、事業評価に役立てる予定です。	保健所	健康企画課
	質問	「健康さっぽろ21（第二次）」進捗状況報告書の基本要素の「1 栄養・食生活」について、食生活改善推進員協議会の活動における、親子料理教室や高齢者の栄養教室など、幅広い年代に対し地域に根差した健康づくりを行い、効果的な啓発ができていますとありますが、具体的にどのような活動を通じて、どのような効果が得られていますか。また、人数は足りていますか。	<p>「親子料理教室」では、主に小学生とその保護者を対象に調理体験を通して食に関する学習をする教室を行っています。参加者からは「調理に興味を持った」「もっと子どもに体験させようと思った」などの声が多く、調理を始めるきっかけや食の学びの場として毎年人気を得ています。また</p> <p>「高齢者低栄養予防教室（すこやか食育支援事業）」では、簡単な調理や試食、レシピの紹介、低栄養の自己チェック等を行い、食生活の振り返りや食への意欲を向上させる教室を実施し、毎回、実施するアンケートの9割以上が「参考になった」「また参加したい」との回答であり好評です。現会員数で実施できる取組を行っていますが、ますます充実した取組をすすめるため、会員が増えるよう支援いたしたいと考えています。</p>	保健所	健康企画課
	質問	「健康さっぽろ21（第二次）」進捗状況報告書の基本要素の「3 休養」について、精神疾患や心の悩みなどの電話相談は、コロナで増加していますか。また相談員は足りていますか。	心の健康づくり電話相談は相談員2名体制で実施しております。R2年4～12月の総相談件数は8,403件で、このうち新型コロナウイルス感染症による不安や不調についての相談は494件でした。また、前年同月の総相談件は8,116件であり、ほぼ横ばいとなっております。相談員について、現状では不足しているとは考えておりません。	障がい保健福祉部	精神保健福祉センター
	質問	「健康さっぽろ21（第二次）」進捗状況報告書の基本要素の「5 喫煙」について、令和2年度後半に、パネル展を実施するとありますが、他に周知のための活動があれば教えてください。	さっぽろ受動喫煙防止宣言について概要を紹介する動画（2分45秒）と短縮版動画（15秒）を作成しました。市公式ホームページや市の広報用媒体での放映を予定しております。次年度は、公共交通機関の広告掲出による周知啓発を行いたいと考えております。	保健所	健康企画課

委員名	区分	質問・意見	回答	部	関係課
玉腰委員	質問	「健康さっぽろ21（第二次）」進捗状況報告書の基本要素の「7健康行動」について、特定保健指導の実施率が11.4%（昨年度8.2%）とありますが、上昇させるための取組はありますか。	実施率向上に効果が見られた住民集団健診における「初回面接分割実施」（健診結果をもとに、健診当日に特定保健指導の一部を先行して行う）の会場数をさらに拡大します。またウェアラブル端末（利用者に腕時計タイプの電子機器を装着してもらい、アプリで健康情報を管理）を使用した特定保健指導の試行的実施も予定しています。	保険医療部	国保健康推進担当課
	質問	「健康さっぽろ21（第二次）」進捗状況報告書の基本要素の「8親子の健康」について、助産師による動画の配信を行ったとありますが、視聴されていますか。宣伝はしていますか。	さっぽろ子育て情報サイトで配信しています「育児に関する動画」については、各区保健センターにおいて周知をしているところです。現在、新型コロナウイルス感染症の影響で母親教室等を休止していることから、妊娠中に育児について学ぶ機会がないことへの不安を訴える方も多く、初妊婦訪問や新生児訪問等の機会でも積極的に周知をしています。	保健所	健康企画課
土肥委員	質問	・コロナ禍でWeb、オンラインが多用されることをチャンスとして、教育活動をWeb、オンラインセミナーにシフトすること、そのために高齢者のオンライン教室から始めること、など考えてはいかがでしょうか？	・母子の事業については、オンラインによる相談が可能なものについては（例：不妊専門相談）、オンラインで相談できるよう機材の準備を進めております。 その他、動画やオンラインの配信について検討していきます。	保健所	健康企画課
	質問	・特定健診では、診療の中で同様な検査をしているのではありませんか。がん検診では会社健診、人間ドックでのがん関連検査がされているために実施していないことなどが十分に把握されていない可能性があるため、健診状況についてアンケート調査をしてはどうか。	特定健診の検査項目と診療の検査項目が重複する場合がありますが、完全に一致しない場合もあるので、通院中の方にも特定健診を受診することを勧めています。なお、平成29年12月にアンケート調査を行い、特定健診を受診しない理由（複数回答可）を聞いたところ、33.5%の方が「定期的に通院しているから」と答えています。 また、がん検診は自治体検診の他、会社検診や人間ドック等で受診される方もいることから、受診の実態を把握するため、令和2年度に受診率実態調査を実施しました。 検診種別ごとの受診率やがんに対する意識等、取りまとめた調査結果を市のHPで公表する予定です。	保健医療部	国保健康推進健康課特定保健指導担当係
	質問	・メタボの健康問題については、喫煙問題とともに学校教育に取り入れてもらうのも良いのではないかと。	学校保健での取組も踏まえ、引き続き、子どもを対象とした生活習慣病予防の普及啓発を進めていきます。	保健所	健康企画課

委員名	区分	質問・意見	回答	部	関係課
土肥委員	質問	・がん検診では、札幌独自の乳がん検診のメリットを広報したり、HPVの摂取を控えたほうが良いとか、絶対した方がよい等の広報をしたりせず、ありのまま効果と副反応の可能性を定期接種であることとともに知らせる活動をしてはどうか。	乳がん検診で超音波検査を希望される方には、検査のメリットとデメリットを事前にお伝えしたうえで受診を判断していただいております。 HPVワクチンは、令和2年10月に、厚生労働省から、公費で接種できるワクチンの一つであることを周知するために、対象者に厚生労働省にて作成した、ワクチンの効果とリスクについて書かれたリーフレットを送付し、情報提供を行うようにとの通知が発出されました。 これを踏まえ、札幌市では令和3年1月に、接種期限の迫っている高校1年生の方を対象に、接種勧奨ではなく、制度への理解を深めることを目的とした個別通知を行いました。	保健所	健康企画課
	質問	・各課題について、参加の%だけでなく明瞭な健康改善の視標が数値目標として入るとよい。	いただきました御意見のとおり、各課題への取り組み状況をわかりやすくお示しできるよう検討いたします。	保健所	健康企画課
花井委員	質問	・コロナ禍による身体活動量の低下予防策として、オンラインをより活用できないかと考えている。健康イベントもZOOMなどで開催できればより多くの市民の参加が望めるのではないかと。	感染予防対策を講じながら実践できる、健康教育や普及啓発事業を検討する上で、オンラインの活用を含めた手法を、地域のニーズを踏まえて検討してまいります。	保健所	健康企画課
吉田委員	質問	Webを利用した情報提供等継続できる方法について良い案があればお知らせください。	・動画の活用や、チラシやリーフレットを作成する際にはQRコードを掲載し、市民が手軽に情報にアクセスできるようにしております。	保健所	健康企画課
	意見等	当会におきましても、コロナウイルス感染症予防のため地域における栄養教室の実施回数が減っております。			